

賛助会員

有限会社浜野顕微鏡 (〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-18)

株式会社ヤクルト本社研究所 (〒186-8650 東京都国立市谷保 1796)

神協産業株式会社 (〒742-1502 山口県熊毛郡田布施町波野 962-1)

理研食品株式会社 (〒985-8540 宮城県多賀城市宮内 2-5-60)

マイクロアルジェコーポレーション株式会社 (〒500-8148 岐阜県岐阜市曙町 4-15)

共和コンクリート工業株式会社 (〒060-0808 北海道札幌市北区北 8 条西 3 丁目 28 札幌エルプラザ 11 階)

(株) 環境総合テクノス (〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町 1-3-5)

(株) 日本港湾コンサルタント (〒140-0031 東京都品川区西五反田 8 丁目 3 番 6 号)

ご投稿をお待ちしています

「藻類」は皆様の原稿で成り立っている雑誌です。原著論文のみならず、総説やその他の報文（記事等）のご投稿もお待ちしています。ご投稿に際しましては、次頁の投稿案内（2013年3月27日改正）をご覧ください。（編）

編集後記

編集2年目に入りました。原著論文と藻類学最前線（大型藻類と微細藻類）を毎号掲載していきたいという最初の目標は、皆様のご協力で達成する事が出来ました。一方で、前/前々編集委員長が充実されていたコラム「遊走子」など「ホッとさせるコーナー」が少ないのではとの心配もあります。もう少し藻類に関する一般的な情報を会員の皆様にお届けしたいとは思っているのですが、なかなか集められないのが現状です。「ちょっとしたお話」こそ、ページを充実させることができます。皆様からの情報、お待ちしております。

日本藻類学会第38回大会（東邦大学、船橋）は、日頃からお世話になっている宮地先生（東邦大学）が大会会長で、私もプログラム編集やシンポジウム企画を担当させていただいています。東邦大学での大会は18年ぶりで、当時私はM1からM2になる時期で、海藻のことが知りたくて、でも研究発表を聞いても難しく、なんだか「やる気」だけはものすごく強く感じ、帰りの新千歳空港に到着する直前、すぐく「俺、頑張る！」と一人勝手に盛り上がったのを今でも覚えています（汗）。皆様にとって実りある大会になるよう願っています。（畠田 智）

表紙 日本藻類学会第38回船橋大会ロゴ

制作者：富塚朋子さん（会員、千葉県立中央博物館共同研究員）

制作者より：暖流系と寒流系要素からなる極めて種の多様性が高い海藻フローラを観ることができる房総半島と象徴としての日本産固有種・オオノアナメ *Agarum oharaense*（不等毛植物・褐藻綱・コンブ目・スジメ科）[最重要・重要保護生物：千葉県 RDB (2009)] を配した。また、日本藻類学会・第38回大会開催地である千葉県・船橋市の位置を●で示した。